災害時の車中泊避難について

1. 車中泊避難者支援の考え方

車中泊避難とは、避難所での避難生活が必要な方が、やむを得ず車で避難生活を送ることをいい、車中泊による避難は、平成16年の新潟県中越地震や平成28年の熊本地震で多く発生。

【車中泊避難する理由】

- ・余震が怖い
- ・避難所が満員
- ・乳児連れで夜中に泣いてしまう
- ・ペットがいる

【メリット】

- ・プライバシーの確保
- ・ペットの世話ができる

【デメリット】

- ・エコノミークラス症候群の危険性

→車中泊避難は健康管理や避難者等の状況把握の面で課題があり望ましいものではないこと、長期の生活を送る場所として適切ではないことを前提に、様々な理由によりやむを得ず車中泊を選択する避難者が一定程度発生することを踏まえ、平時から検討・準備が必要。

2. 現 状

「避難所開設・運営ガイドライン」P32 車中泊避難者等への対応

- (i) 車中避難者には車中で避難している状態を、避難所へ申し出ることを周知します。
- (ii) 車中避難者であることを避難所で申し出てもらい、避難者名簿で受付します。
- (iii) 食料等の配給時間等を周知します。
- (iv) 食料・物資を配給します。
 - ・ 車中泊避難は、エコノミークラス症候群などの健康管理上の問題があるため、避難所への避難を勧めます。
 - ・ 避難所では十分な駐車スペースの確保が困難なため、移動をお願いすることがあることに加え、近辺にある駐車可能な場所などを把握しておくことが望まれます。

3. 防災計画等の修正

国の防災基本計画（令和6年6月）の修正

- ・市町村（都道府県）は、やむを得ず車中泊により避難生活を送る避難者が発生する場合に備えて、**あらかじめ、地域の実情に応じ、車中泊避難を行うためのスペースを設置**すること等、**車中泊避難者の支援方策を検討するよう努める**ものとする。その際、車中泊を行うに当たっての健康上の留意点等の広報や車中泊避難者の支援に必要な物資の備蓄に努めるものとする。
- ・市町村（都道府県）は、車中泊避難を行うためのスペースが設置された場合は、車中泊避難を行うためのスペースの避難者数、食料等の必要な物資数等を集約し、必要に応じ物資の補充等の支援を行うものとし、被災者支援に係る情報を車中泊避難を行うためのスペースの避難者に対しても提供するものとする。

議論いただきたい内容

国の防災基本計画（令和6年6月）の修正（要点）

市町村は、あらかじめ、地域の実情に応じ、車中泊避難を行うためのスペースを設置すること等、車中泊避難者の支援方策を検討するよう努める。

車中泊を行うに当たっての健康上の留意点等の広報や車中泊避難者の支援に必要な物資の備蓄に努めるものとする。

市町村（都道府県）は、車中泊避難を行うためのスペースが設置された場合は、車中泊避難を行うためのスペースの避難者数、食料等の必要な物資数等を集約し、必要に応じ物資の補充等の支援を行うものとし、被災者支援に係る情報を車中泊避難を行うためのスペースの避難者に対しても提供するものとする。

- ①車中泊避難用スペースの確保の必要性と課題について
- ②どのような場所を選定する必要があるかについて
- ③車中泊避難に必要な物資について